

二〇一四年 七月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

水よく石をうがつ

れんによしようにん
蓮如上人

石は硬いもの、水は柔らかいものと一般的に考えられています。しかし、長い年月の間には硬いはずの石が屋根から落ちる雨水で穴をあけられることがあります。石のようになかなか私の心も、水のように柔らかな仏教の言葉を繰り返し聞いていくうちに、穴があけられていくということを、この言葉は示しています。

例えば、自分が話した内容が後になって間違っていたことに気付いたという経験はありませんか。しかし、なかなかたつた一言の「ごめん」がいえず、素直になれない時があります。仏教は、そんな私に、「常にわが身をかえりみなさい」と示します。正しくありたいという思いは大切ですが、自分自身のあり方を振り返り、素直に過ちを認めることも大切なのです。仏教を聞き続けることの重要性を示した本願寺八世の蓮如上人の言葉。

※ うがつ・・・穴をあける

今月の聖語

他人の過失を見るなかれ。他人のしたこととしなかったことを見るな。ただ自分のしたこととしなかったことだけを見よ。

『ダンマパダ』

「いやーやゝいやーやゝ先生に言うたらゝ」

こんな歌を聞いたことがある人はいませんか。他人の過失（＝あやまち）や悪いことを、先生に告げ口をするときに歌われます。作曲者は不明で、地域によって歌詞が微妙に異なりますが、幼稚園児や小学生の中で、昔から伝えられています。

幼い頃だけでなく、他人の過失を取り立てて人に話したり、指摘したりすることはあります。ですが、自分の過失となると、わざわざ人に話したりしません。むしろ、見て見ぬフリをしてしまうことがあるかもしれません。

ついつい自分より他人のことが気になりますが、聖語には「ただ自分のしたこととしなかったことだけをみよ」と示されます。目を向けるべきは、この自分。「自分はどうか」今一度、自問自答させられるブツダの厳しいお言葉。

宗教教育係